

第Ⅰ学年地理総合学習指導案

日時 令和８年１０月２日（金）
第６時間目 １４：１０～１５：００
対象 第Ⅰ学年Ｂ組 ４１名
学校名 東京学芸大学附属高等学校
場所 Ⅰ年Ｂ組教室
授業者 伊藤茜
指導者 松本至巨 先生

Ⅰ. 単元名

「気候と生活文化」（山川出版社）

Ⅱ. 単元の目標

- ・世界の人々の生活文化は、地理的環境との相互作用によって多様化・変化していることを理解し、自他の文化を尊重しながら国際理解を深めることの重要性を理解する。
- ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わり等に着目して主題を設定し、生活文化の多様性や変容の要因などについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

Ⅲ. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
世界の人々の特色ある生活文化を踏まえ、人々の生活文化が地理的環境と相互に影響し合うことで多様性を形成していることや、地理的環境の変化に伴って生活文化も変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を踏まえ、自他の文化を尊重し、国際理解を深めることの重要性などについて理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる地域の特徴や自然的・社会的条件との関わりに着目して主題を設定し、生活文化の多様性や変容が生じる要因について、多面的・多角的に考察し、表現している。	地理に関する事象について、そこに見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚している。

Ⅳ. 指導観

（Ⅰ）単元観

本単元では、衣食住を中心とした生活文化が成立する背景について気候と植生からなる自然条件と宗教という社会的条件を取り扱う。世界の人々の生活文化について、自然環境や産業、宗教などの地理的条件との関わりに着目し、その差異や多様性について理解できるようにする。また、日本との共通点や相違点、生活と宗教との関わりなどを取り上げ、多様な習慣や価値観をもつ人々と共存することの意義に気付くことができるようにする。

（Ⅱ）生徒観

本学級の生徒は、中学校までの学習を通して、世界の様々な地域の自然環境や人々の生活について基礎的な知識を身に付けている。一方で、人々の生活文化を自然環境だけでなく産業、宗教などを含めた地理的環境との関わりから多面的に捉える経験は不足していると考えられる。また、東京という多様な人々や文化が集まる

地域で生活する生徒にとって、自らの生活文化を相対化し、異なる文化や価値観について理解を深めることは重要である。そこで、日本との共通点や相違点にも着目しながら世界の生活文化を論理的に学習することで、生活文化の多様性や、それを形成する地理的環境との関わりについて理解を深めることを目指す。

(3) 教材観

本単元では、東経 60 度以東のアジアを中心とした事例を扱い、世界の人々の特色ある生活文化について学習する。前半では、雨温図や地図を用いながらケッペンの気候区分を扱うとともに、気候が人々の生活に与える影響について食文化を中心に考察する。特に、気候が降水量・気温・植生など様々な要因によって形成されていることを理解するとともに、気候と農業との関わりに着目することで、自然環境と人々の生活との関係を捉えることを目指す。後半では、衣文化及び住文化、宗教を扱う。地域によって異なる衣服や住居の特色に着目し、それらがどのような自然環境と関わって形成されているのかについて考察する。また、宗教についても食文化を中心とした人々の生活との関わりに着目することで、生活文化が自然環境だけでなく、歴史的背景や社会的な要因などとも関係しながら形成されていることを理解できるようにする。

単元を通して、日本との比較に加え、南北や東西、同一国内の地域間など、事例を比較する視点を積極的に取り入れる。比較を通して、世界の人々の生活文化の共通点や相違点を捉え、その背景にある地理的環境との関わりについて考察を深めることができると考える。また、雨温図や地図、各種の図表やデータ、写真などの資料を活用することで、地域の特色を多面的に捉え、地理的事象を資料から読み取る力を育成することも重要である。

5. 単元の指導計画（全 6 時間）

時	目標	○学習内容 ・ 学習活動	評価規準 (評価方法)
第 1 時	世界の主食に注目し、食文化と気候のかかわりについて資料を基に考察することができる。	○世界の主食に着目し、食文化と気候の関わりについて資料を基に考察する。 ・ アジア各地の主食について、どのような農作物が使われているかについて考える。 ・ 気候の特徴に合わせて農作物が作られていることを理解する。 ・ 米が食べられている地域の特徴や、食べ方の特徴などについて考察する。	人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性をもつことなどについて理解できる。【知・技】 (レポート)
第 2 時	小麦を主食としている地域の生活文化と気候について考察することができる。	○小麦を主食としている地域の生活文化と気候について考察する。 ・ 小麦の栽培条件について確認する。 ・ 小麦を主食としている地域がどのような地域か予想し、気候の特徴を理解する。 ・ 生活文化と気候とのかかわりを考察する。	小麦を主食としている地域の生活文化について、地理的環境から影響を受けたり、与えたりして多様性をもつことなどについて理解できる。 【知・技】 (レポート)
第 3 時	米や小麦以外を主食とする地域や、主食以外の食物と生活文化のかかわりにつ	○米や小麦以外を主食としている地域の生活文化と気候について考察する。 ・ これまでに扱った作物が取れない箇所はどのような主食を取っているのか考える。	世界の人々の生活文化について、場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどを考察

	いて考察することができる。	・肉類やトウモロコシなどを主食としている地域があることを知り、その地域がどのような気候なのかを考える。 ・気候の特徴を理解し、主食以外の食物について、それぞれどのような特徴があるかを考察する。	し、表現することができる。【思・判・表】（レポート）
第4時	各地域の民族衣装について、地域による違いを気候と関連付けて理解することができる。	○アジアを中心とした世界の民族衣装に着目し、資料を基に各衣装の特徴と気候を関連させる。 ・5枚の民族衣装の写真を観察する。 ・写真の民族衣装がどこで着られているのかを考える。 ・衣装の素材や形の特徴を気候条件と関連付けて考察する。 ・衣装の特徴についての特徴や、気候条件とのかかわりについて自分の考えをまとめる。	民族衣装の地域間での違いを捉え、その違いを産業・気候の条件と関連づけて理解できる。【知・理】（ワークシート）
第5時	各地域の住居について、地域による違いを気候と関連させて理解することができる。	○アジアを中心とした世界の伝統的な住居に着目し、資料を基に各住居の特徴と気候・植生を関連させる。 ・5枚の伝統的な住居の写真を観察する。 ・写真の伝統的な住居がどの国のものなのかを考える。 ・その国（地域）の気候を確認する。 ・住居のつくり/材質の背景には、気候・植生という条件があることを考える。	伝統的住宅の地域間の違いを捉え、その違いを気候や植生と関連付けて理解できる。 【知・理】（ワークシート）
第6時	生活文化の特色について宗教とのかかわりから考察し、気候だけでは説明できない多様性について理解する。	○食文化を中心に世界の生活文化を宗教の観点から見直し、多様な慣習やその背景を関連付けて理解する。 ・これまで学習した生活文化を振り返る。 ・マクドナルドの料理から、日本との違いを読み取る。 ・日本との違いが生まれる原因が宗教であることを確認する。 ・日本の宗教や、それによる食文化の特徴を確認する。 ・宗教ごとの特徴をまとめる。 ・生活文化と宗教を関連付け、考察する。	生活文化が自然環境だけでなく、宗教などの社会環境とも関わって形成されていることを理解する。【知・理】 生活文化とその背景について多面的に考察し、表現している。【思・判・表】 （ワークシート）

6. 本時の指導（全6時間中・第5時間目）

（1） 本時の目標

各地域の住居について、地域による違いを気候と関連させて理解することができる。

（2） 本時の展開

時間	学習活動(主な発問・予想される生徒の反応)	指導上の留意点 ☆評価
導入 10分	○前回の復習 ・気候と民族衣装とが関連していることを確認する。 ○スライドに提示された、5枚の写真を見て気づいたことやそれぞれの違いを確認する。 ①東南アジアの高床式住居、②韓国の韓屋、③シベリアの木造住宅、④中国・黄土高原のヤオトン、⑤カナダのイグルー ・どこの国の衣装なのか予想する。	・前回提示した5枚の写真・国名・気候帯が記載されたスライドを提示する。 ・表でまとめをここで提示するようにする ・スライドにまとめて5枚の写真を提示する。 ・プリントを配布して国名の予想・各住居の特徴をメモさせる。 ・話し合いの活動を経て、新たに得た情報があれば、更にメモさせる。 ・黒板を5つに区切り、生徒の意見を板書する。 ・最終的にはどこの国の住居かを明らかにする。

	・隣の席の人と考えを共有する。(計2分) ・国の予想を発表する。 ○住居はなぜ国によって異なるのか考える。	・あらかじめ、「窓・床・材質」の三点には特に注目するよう指示し、板書する。 ・気候が違う、という意見が出る or 出させたら、「伝統的住居と気候の関係を見ていきましょう。」と展開へ移る。
展開 30分	伝統的住居の特徴には、どのような背景があるのだろうか。 ○1枚ずつ写真を詳しく見て、特徴⇒気候という流れで気候とのつながりを考える。 ・国名(地域)から、気候帯を確認する。 ・写真を見て気づいた特徴を挙げる。 ・特徴を振り返り、気候帯のどの要素と結びつけることができるか考える。 ・トンコナン(インドネシア) : 熱帯 ・高床 ・屋根がとがっている ・木でできている ・窓に何もなし ・屋根は草? ・ハノク・韓屋(韓国) : 温帯 ・大きな窓がある ・屋根は瓦 ・壁は主に木でできている ・石段を上がったところに床がある *オンドルという冬対策の仕様がある ・イズバ(シベリア) : 亜寒帯 ・木造 ・丸太が組み合わされている ・窓はあまり大きくない/二重窓 ・高床 ・ヤオトン(黄土高原) : 乾燥帯 ・地面を掘られて作られている ・土でできている ・地面の下にある ・中庭で生活? ・イグルー(カナダ) : 寒帯 ・窓がない ・雪/氷でできている ・かまくらみたい ・煙突がある	・生徒の意見は黒板に板書する。 ・生徒との会話を中心に進める。 ・スライドに一枚ずつ写真を大きく提示する。 ・民族衣装の「窓・床・材質」の特徴を気候と結びつけさせる。 ・「なんで」という問いかけを特徴ごとに聞く。 ・気候名・国名・住居名など、生徒の発言と同様に黒板でまとめる。 ・建物のつくりの特徴と材料の特徴が一目見てわかるように板書する。 ・暖房の名前も板書する。 ・気候・植生を基に自然環境と写真に見られる特徴と関連させる。 →熱帯・温帯・亜寒帯：木 乾燥帯・寒帯：木が取れない…土・雪 高床：湿度・洪水/永久凍土 窓：風通し/気温 暖房の仕組み：永久凍土の有無 ・トンコナン 屋根が急角度で反っていることにも注目させる →降水量が多いので、雨水がたまらないようにするため →日光が高いところにあるから、少しでも屋根を大きくして日陰を確保するため ・ハノク 日本にもありそう/見たことある気がする →なぜ、同じようなつくりの家があるのだろうかというように聞くようにする。 ・イズバ 永久凍土について説明する。 二重窓は北海道を例に挙げて良い。 ・ヤオトン 地中であるメリットは、トンネルなどを例に挙げ、経験からも考えられるようにする。
まとめ 10分	○個人で本時のまとめをする。 ・住居ごとの国名/気候帯/窓/床/材質をプリントの表にまとめる。 ・材質に注目すると、気候帯が二種類に分類できることを確認する。 →樹林気候・無樹林気候という言葉を確認する	・時間次第では、スライドの開示を速めにするよう様子を見る。 ・①の項目は、教員が例として埋めるのも良い。 ・表を使いながら、材質に何があるのか⇒木の有無⇒木をとることができるかどうか⇒樹林気候という流れを考察させる。

	る。 ・材料と気候に注目し、授業で学んだことや感想を記述する。	☆伝統的住宅の地域間の違いを捉え、その違いを気候や植生と関連付けて理解できる。【知・理】 (ワークシート)
--	------------------------------------	--

(3) 主要参考文献

- ・ 詳解現代地図 改訂版 山川出版社(2026)
- ・ 新編 地理資料 東京法令出版(2026)
- ・ 2026 データブック オブ・ザ・ワールド 山川出版社(2026)
- ・ ミリアム・モス (1990) . 『世界の服装⑨ 民族衣装』 . リブリオ出版
- ・ ポール・オリバー (2004) . 『世界の住文化図鑑 Dwellings』 . 東洋書林
- ・ 布野修司 (2011) . 『世界住居誌』 . 昭和堂

『スラウェシ島 タナ・トラジャの旅 (4) ～トンコナン集落 ケテ・ケス～』スラウェシ島(インドネシア)の旅行記・ブログ by トンガリキさん【フォートラベル】

Vol.1 鞍型屋根の家 (インドネシア) | 世界の環境共生住宅 | サステナビリティ | 大和ハウス工業
床暖房の自社ブランドをつくろう | ソウルの達人

ロシアの7種類の伝統家屋 - ロシア・ビヨンド
ペチカと暖炉の違いはその構造と熱効率の良さ - 暮らしの手づくり

Vol.5 土の中の家、ヤオトン (中国) | 世界の環境共生住宅 | サステナビリティ | 大和ハウス工業
開いた雪の上の氷に囲まれたイグルーのような建物, イグルーの家の写真, 雪, イグルー背景壁紙画像素材無料
ダウンロード - Pngtree

Vol.2 雪の家、イグルー (カナダ北部) | 世界の環境共生住宅 | サステナビリティ | 大和ハウス工業